

感染症

県中地域感染症発生動向調査週報(2025年第5週)

(令和7年1月27日～令和7年2月2日)

令和7年2月6日

区分	疾病名	2025年					2024年	2023年
		2週	3週	4週	5週	合計	合計	合計
定点報告	インフルエンザ	36.44	15.67	10.44	2.11	-	-	-
		328	141	94	19	764	2,570	3,223
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	11.00	8.00	8.89	7.89	-	-	-
		99	72	80	71	374	2,596	1,698
	RSウイルス感染症	0.20	-	-	0.20	-	-	-
		1	0	0	1	2	104	110
	咽頭結膜熱	-	-	0.20	0.20	-	-	-
		0	0	1	1	3	104	37
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	0.80	1.40	3.00	-	-	-
		4	4	7	15	30	240	176
	感染性胃腸炎	1.20	1.80	4.00	3.40	-	-	-
		6	9	20	17	52	696	1,023
	水痘	-	-	0.40	0.40	-	-	-
		0	2	2	2	6	29	28
	手足口病	-	-	-	-	-	-	-
	0	2	0	0	2	973	132	
伝染性紅斑	2.00	4.40	7.40	3.80	-	-	-	
	10	22	37	19	90	43	3	
突発性発しん	0.40	-	0.20	0.20	-	-	-	
	2	0	1	1	4	81	100	
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	28	188	
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	4	2	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	
	0	0	0	0	0	0	1	
流行性角結膜炎	3.00	2.00	-	-	-	-	-	
	3	2	0	0	5	6	9	
全数報告	結核	1	0	0	0	1	8	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	0	0	0	1	1	0

出典：福島県感染症発生動向調査週報(I DWR)より県中地域分を抜粋しています。

県中地域の流行状況

流行中	インフルエンザ、伝染性紅斑
増加傾向	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎

県内のインフルエンザ警報は解除となりましたが、流行は続いています。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について】

A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症です。感染経路は、咳やくしゃみに含まれる細菌を吸い込む飛沫感染と、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染です。2～5日間の潜伏期間の後、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓舌の舌などの症状が現れます。1週間以内に症状は改善しますが、まれに重症化して肺炎や髄膜炎等を合併することがあります。抗菌剤による治療が行われます。喉の痛みがひどい場合は、柔らかく薄味の食事を工夫し、水分補給を心がけましょう。

【伝染性紅斑について】

増加傾向が続いています。ヒトパルボウイルスB19に感染することで起こる病気で、小児を中心に流行します。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、ウイルスが付着した手を介した接触感染です。約10日間の潜伏期間の後、両ほほに紅い発疹、体や手足に網目状の発疹が現れ、1週間程度で消失します。発疹が出現する7-10日前に風邪症状がみられることが多く、この時期にウイルスが多く排出されます。発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低下し、感染力もほぼ消失します。妊娠中に感染した場合、胎児水腫や流産を生じる場合があります。



基本的な感染対策をお願いします

手洗い + 手指消毒

場面に応じたマスクの着用
や咳エチケット

定期的な換気

体調不良時は
無理せず休む